

ガンバリの力を育てる

遊びと素材

(その二) 糸まき

清水 エミ子

前回のビー玉あそびは思いがけないほどの力を子どもたちから引き出してくれた。幼児の体の中にこんなにも無限にガンバル力がひそんでいるものかと、私は子どもを見るたびに神秘ささえ感じるような気がしたものである。そして次の素材、糸まきではどんな結果がみられるだろうかと胸をときめかせて、ダンボール一ぱいの糸まきを保育室に持ち込んだのであった。(家庭用の糸まき百五十個、職業用の大きいプラスチック型の糸まき五十個)

◎クラス全体の子どもたちがビー玉を経験していたので、

- ・何のこだわりもなく糸まきにとびついて来た。(これでも遊べるという安心感が全員にあった)

- ・糸まきを今まで全然知らなかった子が四、五名いたがかえって新鮮な気持ちで取り組んでいった。「自分の家にあるのもあいたらもらってくるね」と家の中のものにも目を向けるようになったようである。
- ・ビー玉とのちがい(素材によるちがい)を理屈でなく体験していた。

ころがり方、あそび方では子どもたちの取り組み方にビー玉とは質のちがったくりかえしとがんばり力がみられた。ビー玉と糸まきの組合せが子どもたちの中から、思いがけない力と発展を引き出してくれたのには、よろこびとおどろきを味ったのである。

いじってみる

素材をたしかめる。

◎ 大部分の子どもの家庭にあるもののため親しみがすぐわいたようである。

「先生この小さいのぼくの家にもあるよ」

「あたしんちのも糸みんなつかったらもってくる」などと言いながら、

◎ 手に持って眺めまわし、いじりまわし自分の家のと比較してみる。

「あたしのおうちの、こうゆうしるしじゃないよ」

「ぼくんちのはもう少しふといみたい」「こんな大きいのだとぼくんちのミシンにつかないね、あんたんちのは」と、ただいじっているだけでもこんなに子どもたちはいろいろのことを発見した。そして「先生、型のちがうのと木がちがうのがあるね、うちのはみんな同じだけど」とか、「この大きい糸まきの太さ、ぼくの手にちようどだ、ほらね」と手でにぎってみせ、そこにぎりごちのよさを知らせていたのであった。

◎ 糸まきの感触をいろいろなところであのしむ。

片手で糸まきをぎゅっと握り、片手の手のひらにたたきつけて感触をたのしむ。にぎった糸まきをホッぺたにおしつけてみて、その



①

②



素材の感色をたのしんでいる。

手の上をころがしてみて、「くすぐりたい」と友だちにもしてみる。

今まで知らなかった子は、

◎はじめて知った糸まきのため、がむしゃらに何かやってみたくなつたようである。そしてしばらく他の子がいじるのを眺めていたが、そのうちおそろおそろ手を出してきた。

・手にもつたとたんに、いろいろのものに連想された。「先生これみてごらん」とビー玉の時もよろこんで取りくんだ、鉄也が私をひっぱりに来た。

ぼうえん鏡だよ

「遠くに見えるね」(写真①)

鉄也は両手で大きい糸まきを握りしめ目にあて、そして「先生、望遠鏡だよ、よくみえるよ」と大よろこびである。私も思わずまねて眺めた。鉄也の仲よしの昇もさっそくまねていた。そして

「よくみえるけど遠くにみえるね」とのぞいただけでひとつの発見をしているのである。これを近くでみていた正樹が

「小さいのだとほんものより小さくみえるよ、やってみな」と鉄也と昇に近づいて来た。そしてそれぞれ持っていた糸まきを交かんして眺め「ほんとだ、なんでだろう」「小さいのでみるから小さくなる、

ん、や、ないの」など目にあててははなし、くりかえし、室の中のいろいろのものを眺めていたのである。そして一回眺めるごとに

「あっ、あの人小人みたいにみえる」「近くのをみるとみんなみえないでちつとしかみえないよ」などおとな顔まけの発見をしていくのであった。

たつた目にあててみるだけで糸まきは、「なぜだろう」と子どもたちに考えさせ、いろいろくりかえして解決を与えてくれるのである。(写真②)

長い望遠鏡になった

何回もいろいろなものをのぞいていた鉄也は、大きい糸まきを三個つないで持とうと、頭をしかめて糸巻きにちょうせんしはじめた。昇が「何やってるの」と聞いても見向きもせず、小さい指をいろいろにうごかして持ちあげている。そして落としては持ち、落としては持ち、文字どおりガンバリはじめた。そしてやっと両手で交互に糸まきを重ねて持ち、「ほら長いぼうえん鏡になった」とうれしそうにのぞいて歩きまわっていた。この発見は男児も女児もよろこんでまねてくりかえされた。ぶ器用な勝あきはくりかえしならなかなかできず、しまいに涙を浮べ、とうとう持つことができたのである。

かたのところであたたく、タイヤになるよ

このような男児のいろいろのあそび方をみながら、手の中に大きな糸まきを入れてなぜまわしていた久美子が、肩の上に糸まきをのせ、つづみを打つまねをしながら「ほら、肩のところで叩くとたいこになるでしょう」と叩いてみせた。「ああそうゆうのテレビでみたことあるよ」などと言いながらまねる子もでてきた。

ころがしてみる

◎前に経験したこと(ビー玉)を活用してみる。

ころがるでしょう

がむしゃらに素材に進んでいく清は「ころがしてあそぶんだよ」と私のまわりに次々に糸まきをころがしはじめた。

・ころがるでしょう。

きょうそうさせようところがる先も見とどけず、次々に投げるように床にころがしている。そしてカチンとぶつかる、と、「ほら、ぶつかった、まがったからだな」などとひとりごとを言いながら箱がからになるまでころがしていた。

こびとの国の自動車工場

清のころがすのをみていた仁が、大声で「わーこれこびとの国の自動車工場だ」と言いながら足もとの糸まきをころがした。

そのことばにつれて、室にいた子は全員といってもよいほど床にこしをおろして、ころがってくる糸まきをころがし返したり、ねらつてあてっこしたりはじめたのだ。室中糸まきだらけになってしまった。そしてこびとの自動車の交通整理がでて糸まきのころがしかえしをしていた。この時こどもたちはあそびながら、ビー玉と同じところとちがうところ、を発見し、たしかめていたりした。

・糸まきもまっすぐころがらない、カーブしちゃうね。(ビー玉と同じ)

・ぎゅっところがすときりきりまいになっちゃうね。(ちがう所)

・力入れてころがさないとすぐとまっちゃう。

・ビー玉よりもよく命中する。

など糸まきの性質をたしかめている。

このたしかめの期間は三日位で終わった。そして次にはすぐいろいろな遊び方に発展していったのである。

ころがしきょうそう

◎ふたついっぱいころがす。

ふたつをならべて持ち、いっしょにころがす。

・同じにならないことを発見。

・いっしょにころがるように持ち方・ならべかたをいろいろに考えてころがしてみる。

・床の目にあわせてころがすと長い距離いっしょにころがっていくことを発見した。

◎坂をころがす。

・積木で坂をつくり、すべりころがす。

・ふたつならべてころがし競争をする。

・積木から落ちたらまげ。

・遠くまでころがった方が勝。

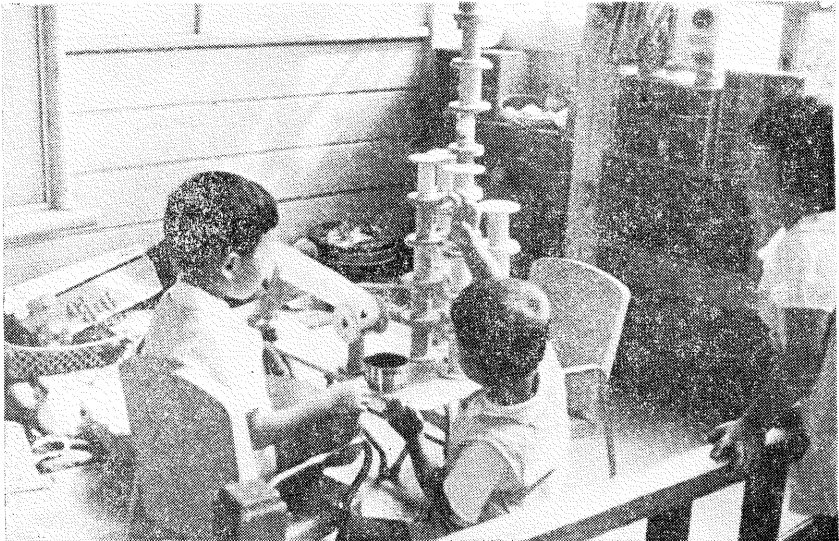
・早く下についた方が勝。

などのルールがあそんでいるうちにきまり、応援の声もだんだん大きくなって長時間あそべられた。

下からおしあげる

ころがしつこの終りころ、下でころがっている糸まきをひろっていた広が、くたびれたのか、下から力いっぱいおし上げた。するとその糸まきが調子よく坂をいっきにのぼり向かいがわにころがり落ちたので、これを見ていた子は思わず手を叩き、「のぼった、のぼった」とかん声をあげた。広のおうちやくが思いがけない遊びの発展を助け、だれかけた遊びをもりあげることになったのである。

③



◎長い坂をのぼらせる。

広のなげあげにしげきされ、それぞれがいろいろの高さの坂を作
って、下からおい上げてあそんだ。

・途中でおちる。

・下の方からころがりおりてくるなどの時は舌うちをしてくやし
ったり、糸まきにつばをつけておまじないをしたりしながらおし
上げ方をいろいろかげんしてくりかえしたりした。そしてうまくのぼ
っていった糸まきがあると、「のぼった、これぼくの糸まきにきめ
た」といってクレヨンで印をつけたり、糸まきにおじぎをしたりす
るのがみられ、思わずほえんでしまった。そして、子どもたちの
夢中になる姿に圧倒されて、ただ眺めている自分に気づく時をもつ
のであった。

かさねる

高くつむ。(写真③)

「あたし七個だったよ」「あたしまがったのなおそうとしてこわれ
ちゃった」と純子と由美子が今まで聞いたことのない大声を出して
いるので近づく、糸まきを積木のようにたてに積み重ねている。

・きちんと重ねないとくずれる。

・まがったのなおす時は、そっとやらないとだめ。

などを発見し、まわりの子にもやらせてみたり、私にもやってみ

ろと進めてくる程だった。

いろいろの型につんでみる

「先生、ちょっとでいいからぼくにこの糸まき全部かしてよ、すぐ
かえすから」

と清がまじめに頼んできたので「どうぞ」と言うと、うれしそう
にままごとコーナーに箱ごと持ち込み、いろいろの型に積みはじめ
た。全部の糸まきで何がつくれるかやってみたかったのである。

・東京タワー

・ビルディング

・工場

などが次々につくられていった。東京タワーができた時、まわり
でみていた四、五名がスツとコーナーに入って手伝いはじめ、十五
〜二十分、いっしょに糸まきの積木をたのしんだのである。この
時、あとから入っていった子どもたちはどの子も無言で入っていっ
たにはおどろいてしまった。

・たしかめくりかえしてあそぶ素材は、子どもたちの心結びつける
力を持っているということを強く感じた。

・こんな時、いれてとか、こうやろうか、ということには必要ではな
くて、かえってことばが雰囲気をごわすこともあることも知らされ
たのである。

まっすぐな所でないとかずれる。

「どうして四個重ねるとくずれちゃうんだろう、しゃくだなあ」「どらやってみよう」と他の子がたしかめ、やっぱりくずれるのでふたりに首をかしげてふしぎがつていると、「机の上でやってみな、まっすぐのところでやれば」とふたりのあそびをみていた女児がひき込まれるように口を出した。

机の上につんだ糸まきは八個も積むことができたのである。

ひっぱる

他の材料を持ちこんであそび出す。

ひっぱりあるく

毛糸のくずを糸まきのおなかに通して結び、それをひっぱって室の中をあるきまわり「これ車ね、オーライ オーライ」とひっぱりあるいていた。そのうちこの糸まきのおなかにキャラメル空箱をはさみ込んで

リヤカーだよ と言いながらままごとの野菜や小さなおもちやをつんでひっぱってあるいた。

ひきよせる

これを見ていた正光は紙ひもをゆわきつけ糸まきのお腹にまきつ

け、ころがしてのばし、それを次に思いきり力を入れてひきよせている。ヨーヨーのようにひもがまきついてひきよせられることを希望んだらしいのだが、これはなかなか成功せず、ずいぶん正光をいらさせたようである。あまりねばり強くない正光がかなり長い時間くりかえすことができたのである。この時は途中でタコ糸と変えてあげたのであるが、途中まではまきつくのだが、なかなか全部はまきつかなかった。すると「ゴムでやったら成功するかな」と正光はゴムをつけてやってみたが、これはとうとう成功しなかった。

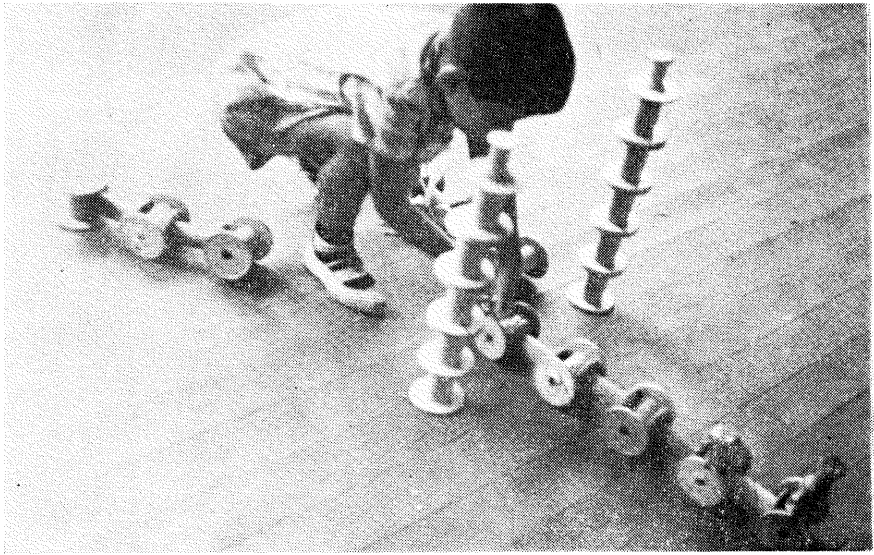
しかし、このような素材は成功しなくても劣等感になつて、残らず、これでもか、これでもかと素材にちょうせんしていく態度を育ててくれることを知らされた。ねばりのない子が素材にいくついてもいくつものよこびを味わうことができたのである。

たおしたり、あてたり

まとあて

大きい糸まきを的にして小さい糸まきであててたおす。この時的にする糸まきには動物の絵がかいてはりつけられたり、おかしの絵がはられたりした。ビー玉の時の射的あそびが材料をかえてくり返し、ためされ、あそばされたのである。

組みあわせたり、つなげたり



・ひょっとしたはずみが大発見になる。

同じ大きさの糸まきをたてよこ交互につなげて、構成あそびが進められた。「先生来てみー来てみー」と何事がおきたのかと、びつくりするほどの大声で昇が私をひっぱりに来た。「ほら、つながっちゃった」と机の上に十ヶの大きい糸巻きが交互につなげられているのを指しながら「のぼるね、こっちの手とこっちの手と一個ずつもってバチンてぶつけたんだよ、そしたらくっついちゃったの、よこむきとたて向きに」とこれ以上目が開かないと言うほど目を見開き、顔をまっかにおどろきとよるこびで私に伝えるのだった。

昇は自分が無意識にした行動が思いがけない結果になったのをおどろき、よるこんでいるのである。そして近くにいた友だち男女をとわず、やってみることをこうふんしてすすめたのである。「やってみ、こうなるよ」と

汽車ごっこ(写真④)

・つなげた糸まき(大)を床や机の上をはしらせてあそぶ。

・その汽車に小さい糸まきで煙突やおかまがつけられ(セロテープではりつけて)煙突の上にはビー玉の煙がついた両用紙で運転手がのせられたりした。

このあそびは男児全員がよろこび、大きい糸まきのうばい合いが三、四日つづけてみられるほどだった。

トンネルや交通整理のおまわりさん

糸まきだけで作ったとんねる。

長くつないだ糸まきを両手にはきみ、左右からそつと内がわにおすと、糸まきはやわらかいカーブで山形になった。そこで、それを床に立てて、トンネルにし、たおれないようにテープで床にはりつけた。そして糸まきの大小くみ合わせた人間を作り、画用紙の顔をつけておまわりさんをたてたりした。

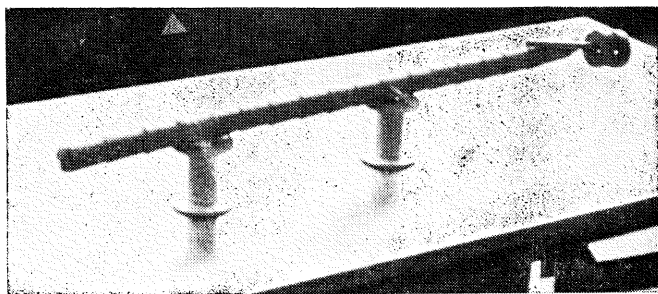
動物

汽車ごっこで糸巻きのくみ合せをたのしんだので、何か変化のあるくみ合せがしたいと男の子たちはねかしたり、たてたり、ななめにしたり、いろいろくみ合わせることに努力しはじめた。はめ込もうとしてはまらなかつたり、のせようとしてのせられなかつたりすると、手で机を叩いてくやしがり「チキシヨウ」と声にまで出してやりなおすのである。こんな時は、今なげだすか、今なげだすか、と思いつながら心の中では、がんばれ、もう一回もう一回、と応援する。そしてこんな時子どもたちの口からとび出すチキシヨウやチェッなどは、けつして悪いことばではない、かえって心からのくやしきや無念きの表れが思わず口をついて出るのであるから、これがとび出す方がかえって子どもたちが夢中になっている表われではない

が、がんばろうとしているのだとさえ感じるので。そしてがんばるぞのかわりのことばのようにさえ思えるのである。昇はのせてはくずし、はめてははずし、を何回もくりかえしているうちに「先生これ何だ」と言つて私の前にくみ合せたものをそつと持つて来ておいたのである。「汽車でもない、なんだろうな」と言うのと、「キリン」と、とくいそうに私を見あげたのである。しばらくして鉄也と康弘が「ぞうができたの」と呼びに来たのでいってみると、画用紙のなをつけたぞうができていた。

「先生、はなはどうやっても糸まきじゃできなかつたよ、体だつてすぐくずれちゃつて、やつとくずれなくなつたの」と言つて、ぞうとキリンのまわりを行つたり来たりするのである。そのくりかえしの苦勞が察せられ、私はそつと戸棚の上のせ「ぞうとキリンにごちそうしたくなつちやつた」と言うのと女兒がままごとコーナーからごちそうを作つてもつて来て、たべさせたりした。こんな時の子どもたちのかおの輝きや自分の作つたものにほれほれしているようすをみると、何か子どもなしに完成したおとなを感じるのである。ためいきをつきながら、「ここんとこなかなかできなかつたよ」といつてさわつたり、「はなはどうとう糸まきじゃだめだつたな」となまいきなしぐさで画用紙のはなの形をなおしたりしている。これまでの遊びでは主に糸まきだけで遊ばれたあそびであつたのだ。ここまで素材がたしかめられると、子どもたちは前に経験したあそびに

⑤



応用していきたがるものである。

ビー玉あそびとくみ合せてあそびはじめたのである。

△おもちゃを作る▽

ビー玉と組合せ

ダンブカー

大きい糸まきに写真のように画用紙でトヨのようなものをつけ、

その中にビー玉をいれて糸まきまきころがすと、ころがる拍子に画用紙が上にもちあがり、ビー玉が外にころがりおちる。これは五、六名がビー玉をたくさんのおせ「ジャリトラなのね、ダンブだよ」と十分位夢中になってあそばれたあそびである。これにしげきされて、

女児が小さい糸まきの人形を作
り、床の上にて「交通事故なのね」と言うと、他の男児がおもちゃの自動車を救急車に見立てて、とんでくるなど、思いがけないあそびに発展したものである。

このあそびを見ていて私は、子どもたちは自分たちの身近なできごとを親しみやすい素材によって再現していくのだな、と感じた。

おとしあな

ダンブカーごっこでビー玉がなくなり、たった一個しか持っていないなかつた正一が、はじめ不満気に室内をビー玉を探しながらあるきまわっていたのであるが、そのうちあきらめたように大きい糸まきを画用紙のとよの両はしにつけ、その上に一個のビー玉をころがしていた。片手をさげすぎてビー玉をころがりおとしてはひろってやりなおし、しているうちに、画用紙のとよに二つ三つの穴をあけ、そして両手を上下しながらビー玉を穴からおとして楽しんだのである。穴のわきには十点と二十点と点数がかき込まれていた。

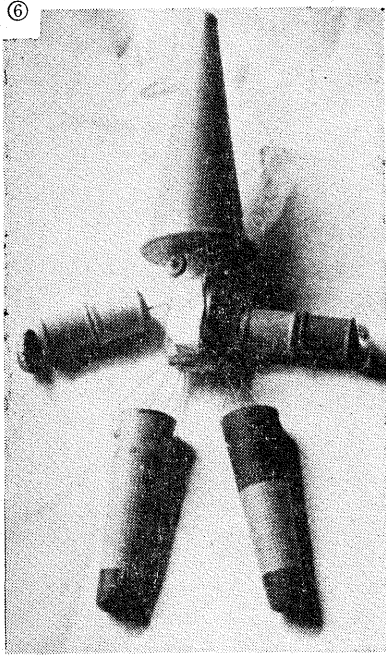
このようすをみていて私は、子どもたちにはたまには材料のたりなきを経験させることも必要だと感じた。たりない、少ない素材が子どもたちに考える力を与えてくれるし、その考える力がすばらしい創意をひき出してくれる。こんな時、子どものエネルギーはフルにつかわれるものだということを知らしたのである。

いつたり来たりのおすべり台

ビー玉と組木との組合せ。

「ビー玉っていうんな高さでころがすとおもしろいね」と机の上に画用紙のとよのついた糸まきを立ててころがしていた孝教は、糸ま

きを重ねて高くしてころがしていたが、「このくらいはいきおいな
らかえってくるぞ」と画用紙のとよの先に組木を取りつけ、ころが
してみる。高すぎていきおいあまって通りこしたり、低すぎて途中
でとまったり、そのくりかえしは見ている私でさえもう止めたら、
と思うほどである。そして二十数回めにやっと画用紙のとよの上か
ら組木の板の上までころがり上っていったりきたりするおすべり台
ができた。この時、孝教は「世界中探せばきつとこう言うおすべり
台があるね、ぼくそれがすべりたいんだよ」と言いながら、くりかえ
しビー玉をころがしている。糸まきをつんだり、はずしたり、立て
たりねかせたり、同じようなくりかえしの中に孝教は少しづつ、変
化と成功へのみとおしをつかみながら、そして自分がのってみたい

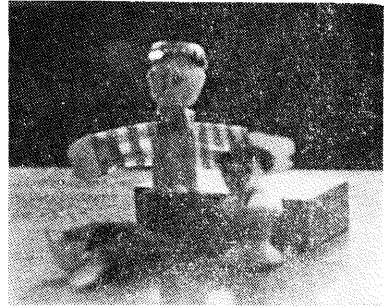


「いったり来たりのおすべり台」を完成させた。組合せや遊びは単
純であっても、そのあそびの過程にあふれるような努力とくりかえ
しがひめられていることを知らされた。子どもたちは、このくりか
えしの成功感の中に学理的な理屈があることなど知らずに、その原理
を体得している。おとなになって、このくりかえしが何らかの型で
みることを信じさせてくれたのである。

戦争ごっこの機関銃(写真⑤)

工業用糸まきと木の大型糸まき。

工業用ボール紙の円すい型の糸まきを長くつなげ、その横はらに
木製大型糸まきをセロテープではりつけたものである。勝明は「バ
パン……」とひとりごとしながら糸まきをつなげていると清が
やって来て「勝ちゃん半分かしてくれ、そして戦争ごっこやろう
ぜ」と話しかけた。「うんやろうぜ」と話しはまとまり、機関銃、
大砲のうち合いがはじまった。これを見ていた他の数名も無言で機
関銃のうち手にまわったり、うたれて倒れる役になったり、室中た
いへんなさわぎになり、女児から「うるさくって」と苦情がでたほ
どである。そして帰りにはきまってだれかが「ぼくの銃砲こわさな
いでね、あしたやるから」と言ってくる。大積木で鉄ぼう置場まで
室内に作られた。そして「おもちゃのより大きくていいね」と話し
合っていた。長い鉄ぼうにしがみついている子どもたちを見て、子



どもたちは遊びたい気持ちに合せて材料を使っていくのだな、と感じたのである。

人形をつくる（写真⑥）

明子は登園してきてから三十分もの間じっと糸まきを使って何かを作っていた、まわりでいろいろなあ

そびが展開されていることなど、いっこう気にならず、もくもくと製作しているのである。数々の糸まきに糸をおしたり、セロテープをはったり、マジックでかいたり、ぶるぎやてみたりしている。そして、私の前にもって来てみせ、「つるしてね」とただ一言いっただけである。その創意のすばらしさにしばらくみとれてしまった。私がこの人形を部屋につると数名の男女がしげきされたのか、「先生糸まきに色ぬってもいい」と聞いて来た。「どうぞ」と言うと、次々に写真⑦のような人形を作ってもって来た。できあがった人形を手にもって「こんにちわ」とか「あそびましょ」など人形劇のようなあそびがはじまった。また、ままごとのフトンの中になかせてあかちゃんにしていた女兒もみられた。こんなことには用

いないだろうと思われる（おとなの考え方）ことがらを子どもたちはつきつきに私の前に展開してくれるのである。そして、その環境がしげきになり、次々に子どもたちは素材の上に個々の持ち味を表していくのであった。

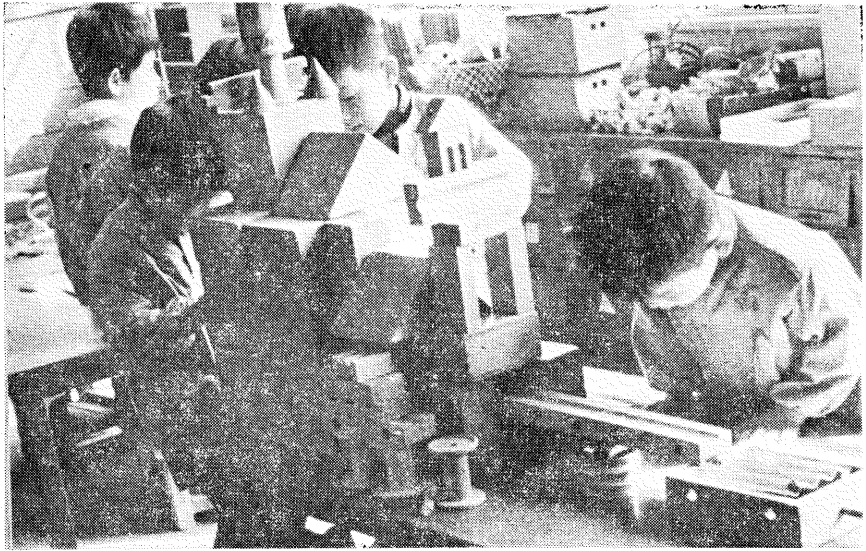
ゲームあそび

ゴルフ

糸まきを立てておき、その上にゴムのボールをのせ、シンブン紙のクラブでうつのである。園庭のそこに糸まきの台がおかれ、スポンスポンと新聞紙をまるめたクラブでうつ。大きくとんだボールをおいかける顔、からぶりしたり、糸まきをたたいたりして失敗を考えこむ口惜しそうな顔が入りみだれ、キャーキャー大きわざであそべたのである。どっちがとぶか、何回あたるかなど、ルールがきめられていたり、ひとりいろいろなふりかた、たたき方を工夫して、くりかえしたり、いろいろであった。が、くりかえして発見し、発展していくとゆう過程がはっきりみられたのである。

糸まきおし

糸まきをよこにし、床におき、新聞紙を細く棒状にかため、その紙の棒で糸まきのおなかおしてころがしていく。紙の棒のため力を入れすぎるとおれてしまったり、棒のあて方でとんでもない方向



にまがったり、目的地をまわろうとあせってもいっこうに言うことをきかなかつたり、その真剣な顔は何とも言えないほどひきしまっているのである。応援する子どもたちも、「もっと右々」「もっとそっと」「もっとまん中」とじっとみつめながら応えんしている。

このあそびは何回もくりかえされ、ひとりだけでそっと廊下で楽しんで練習したりされ、長期間あそびれたあそびであった。

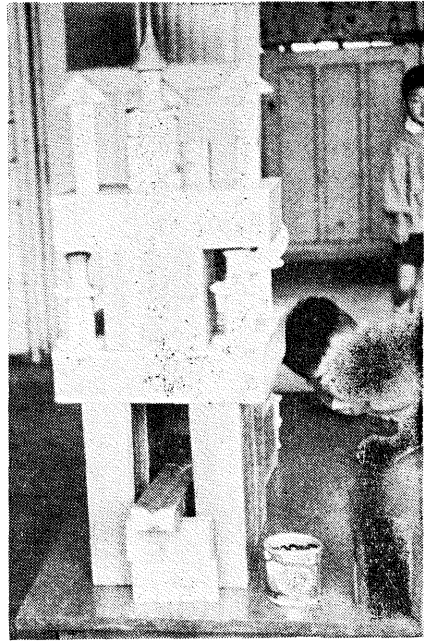
このあそびの第一回目の後「みてるとやさしいと思うけどやるとやれないね、こっちむき、こっちむきと思ってもちがう方にいっちゃうね」などと話し合われ、子どもたちが全力で糸まきにちょうせんしていたのである。ひとりできりかえし工夫し、がんばることのねばりと楽しさを教えられたあそびだと思われる。

構成あそびの補助材や装飾品に

ビー玉と積木と組木。

「オーイ、ここ宝島みたいにかぎりなね」「おっけい、まだビー玉ころがさないでくれよ」「あたりまえ、これはまほうの階段だから、できてからにするよ」

こんな会話が聞かれてきたので、私はすい込まれるように室に入っていくと、机の上に組木のおすべりを作り、そのまわりを床上積木で構成し、その所々に糸まきがおかれている。もちろん、すべり台の台にも糸まきを使い、文字どおり宝島ができあがりかけている



のである。その積木のところどころにつかわれた糸まきが非常にリズムカルにむだなくつかわれている。子どもたちはこうやって、作り出す美しさを知っていくのだなと思った。「そこにそれおくとおかしいよ、その下においてごらん」とか「ここはこの積木より糸まきにしよう」など美しさと造形のリズムもちゃんと表現しているのにはおどろかされた。そして子どもたちの底知れないエネルギーとがんばる力、そしてがんばりながら遊びや考えを発展していく可能性を知ることができたのである。(写真⑧⑨)

私はこの糸まきの素材と子どもたちの活動をみていて

・ビー玉どちがうくり返し方をしていた。(きまっただ型) によるくり返し子どもたちにこれほどまでいろいろと考えさせ、がんばらせてくれた。

・素材によって男児と女児のあそびの発展のさせ方のちがいが、創意のちがいを知ることができた。

・子どもたちが素材に対して、たしかめていく過程にビー玉と同じものがある。

・ころがす、おす、ひっぱる、おとす、たおす、などがあることを知った。

・ビー玉と糸まきの素材で子どもたちががんばる力とくりかえしの効果を体験し、そのくりかえしの中にその素材素材によって質のちがう失敗を与え、それをこくふくしようとする力強いがんばりの力を見ることができ、いろいろの失敗といろいろのがんばる力(くりかえしを)与えることがいかに必要であり、大切であるかを感じ、これから与える空罐や紙のボールでの経験が楽しみで早く子どもたちの前に出してみたくてたまらないのである。そして子どもたちのきんちょうした顔と素材を思い浮かべるのである。

(足立区立関屋幼稚園)

*

*